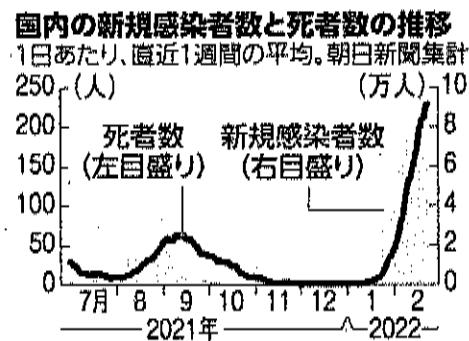


「第6波」死者数 最多水準を更新



新型コロナウイルス対策を厚生労働省に助言する専門家組織は24日、会合を開き、「第6波」の新規感染者は減少傾向が続くものの、死者は高齢者を中心に過去最多の水準を更新しているとの分析結果を公表した。1日あたりの全国の死者数（1週間平均）は23日時点で225人。重症病床使用率も上がってい。る。

後藤茂之厚労相は「当面は多くの地域で軽症・中等症の医療提供体制の逼迫と、高齢の重症者数の増加による重症病床使用率の増加傾向が続く可能性がある」と警戒を呼び

かけた。

国立感染症研究所感染症疫学センターの鈴木基センター長が会合で示した資料によるところ、重症例2555例と死亡例343例を分析したところ、重症例の中央値は73歳、死亡例の中央値は87歳だった。厚労省の資料によると、重症病床使用率の増加傾向も続いている。21日時点の重症病床使用率は全国で36.0%で、前週から1.4㌽増えた。

会合では、濃厚接触者の取り扱いをさらに緩和するよう求めた専門家有志の意見も示された。感染拡大のスピードが速いオミクロン株では、保健所は濃厚接触者を追いかげず、医療従事者らの欠勤が相次いでむしろ社会活動維持の弊害になる、と指摘。流行が最もひどい時期の効果は限定的だとしている。

子)

(市野境、枝松佑樹、下司佳代